

現地を訪問して想うこと

大野 邦明 (2004・法)

この度、東日本大震災復興支援事業、東北応援ツアーの福島県コースに参加させていただきました。現地を訪問して感じたこととして、大きく分けてふたつあります。

ひとつめは、「震災を風化させてはいけない」ということです。これは、あまりにも基本的なことで、当然のことなのかも知れませんが、それだけに非常に重要なことであることを実感しました。昨今、被災地について、マスメディアなどで取り上げられる機会は確実に減ってきていると思います。また、自分の意識の問題ですが、年月の経過とともに震災や被災地のことを意識することが自然と薄れてきてしまっていることが、少なからずあるように思います。しかし、被災地は、いまなお、二次除染、中間貯蔵庫や風評被害の問題など様々な課題を抱えています。震災や被災地に思いを馳せること、現地の情勢を知ること、そして決して風化させないことは、被災地支援のためにできることとして、基本的なことでありながらも、とても重要なことであるということを再認識しました。

ふたつめに、「復興支援のために、自分なりにいまできることに取り組む」ということです。私は、震災のあった当時も現在も、被災地から離れて暮らしていますが、それでも身近でできることはたくさんあると感じました。例えば、被災地の情勢を知ることだけでなく、防災について正確な知識を身につけて備えること、家族、友人や地域との繋がりを大切にすること、節電に取り組むこと、つまらない風評に流されないこと、被災地の食材を購入することなどが考えられます。被災地の食材の安全性については、今回のツアーで実際に感じることができました。また、ツアーのなかで、福島県双葉郡川内村の遠藤村長からお話をお聞きする機会をいただきましたが、遠藤村長は、「被災地のことを知る努力を忘れない」ことが支援のひとつとして大切であるとおっしゃっておられました。今回のツアーでは、「百聞は一見にしかず」であることを実感した、大変有意義なツアーでした。このようなツアーを企画してくださった関係者の皆さまには大変感謝しています。今回のツアーを機に、自分にできることに取り組んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。